SHINTARO SUZUKI'S ONE POINT

「シーガー使って今日も快釣」

鈴木新太郎のワンポイントアドバイス

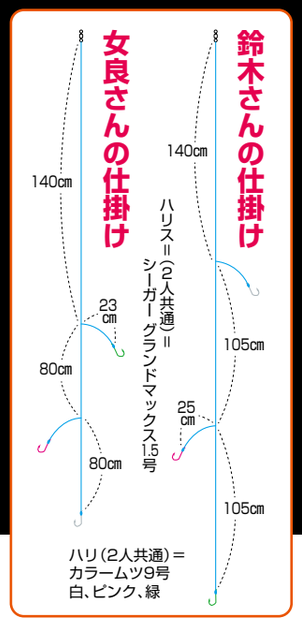
シーガーPE X8 3号

★今回2人がリールに巻いてきたのが「シーガーPEX8」2号。同社PEシリーズで最も伸びの少ないグランドマックスPEを使用した8本組の高強力&高感度PEライン。「視認性のいいカラーを採用しているので、水深の変化に合わせて指示ダナが刻々と変わるイサキ釣りでは正確なタナ取りの強い味方になります。また感度がいいのでアタリも取りやすい」と鈴木さん。

◉シーガーPE X 8＝0.4～6号まで12アイテムを用意。号数により150～400mまで各種。価格はオープン

シーガー グランドマックス 60m巻 1.5号、1.75号

◉シーガーグランドマックス60m巻＝0.3～10号まで19アイテムを用意。価格は3200～6000円（税別）



★2人が選んだハリスは「シーガーグランドマックス」。結節強度、感度、耐摩耗性など、フロロカーボンラインに求められる要素を徹底的に極めた高品質のハリスだ。「このハリスは張りがあるので手前マツリしにくいのが特徴です。ハリスの太さは、30センチ前後のイサキが主体のときは1.5号、35～40センチ級が交じり、多点掛けで掛かるときは1.75号も使います」と女良さん。

枝間にこだわる！

◉「仕掛けは取り込みにやすい長さで作っています。枝間を105センチにすると下バリに食ってきたイサキをスムーズに取り込めます」と鈴木さん。「最初にハリ掛かりしたイサキが暴れると、カラーバリが踊って追い食いを誘うイメージで釣っています。そのためハリがよく動くよう枝間は短くしています」と女良さん。

▲2人同時にイサキがヒット
◀さばきやすい枝間で仕掛けを作ると取り込みもスムーズに行える

▶当日は25～30センチ級のイサキが中心だった

▲多点掛けを連発する女良さん
▶イサキとメバルのトリプルもあった

◉同船した皆さんもイサキの数釣りを満喫

◉地元大原で沖釣りを楽しむ女良さん。イサキ釣りは大得意だ

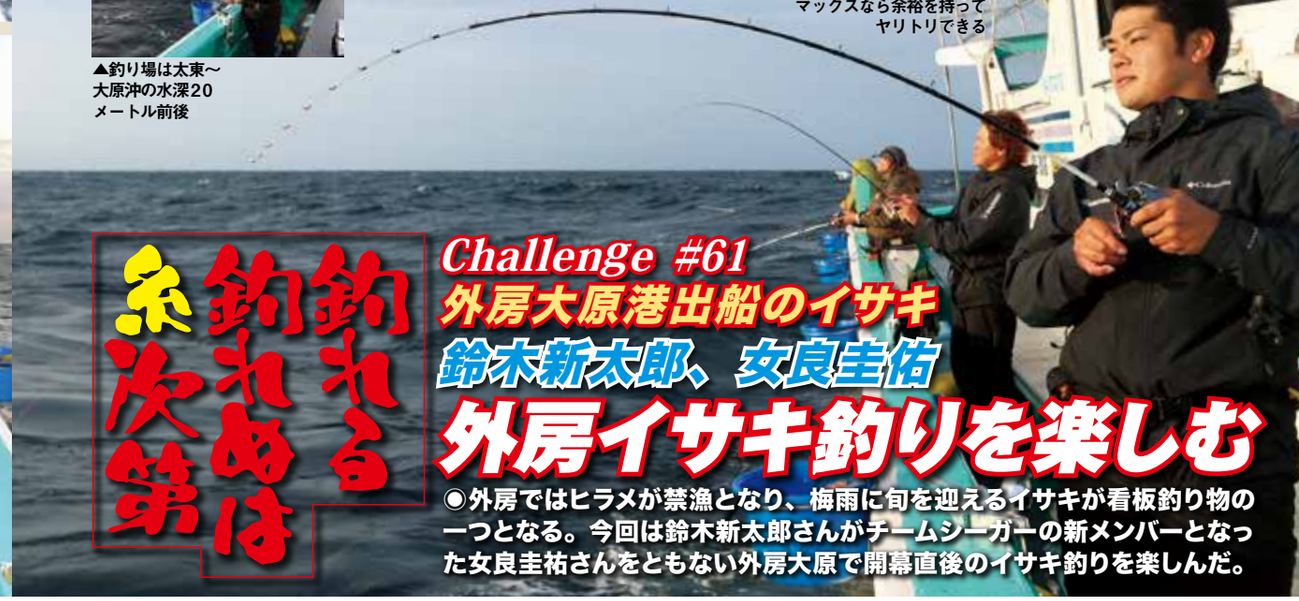
◉鈴木さんは終始途切れることなく釣り続けた

▲釣り場は太東～大原沖の水深20メートル前後

◉profile：女良 圭佑(めら・けいすけ)。千葉県いすみ市在住。イサキ、ヒラメ、一つテンヤマダイなど外房の釣り物を得意とする。休日は大原港つる丸の仲乗りとしてお客さんをサポートする。シーガーモニター

★強さと耐摩耗性に優れるシーガーグランドマックスなら余裕を持ってヤリトリできる

◀2人ともハリスはシーガーグランドマックスを使用



釣れる釣れるは糸次第

Challenge #61

外房大原港出船のイサキ

鈴木新太郎、女良圭佑

外房イサキ釣りを楽しむ

◉外房ではヒラメが禁漁となり、梅雨に旬を迎えるイサキが看板釣り物の一つとなる。今回は鈴木新太郎さんがチームシーガーの新メンバーとなった女良圭祐さんをともない外房大原で開幕直後のイサキ釣りを楽しんだ。

乗船したのは外房大原港の初栄丸。右ミヨシに今春、シーガーフィールドスタッフに仲間入りした女良圭佑(めらけいすけ)さん、胴の間に鈴木新太郎さんの順で座る。

いつもどおり淡々と準備をすすめる鈴木さんの隣で、本誌初登場の女良さんは少し緊張気味。

仕掛けは二人とも3本バリ。外房エリアでは30センチ級のイサキが多点掛けすることもあり、細いながらも強度に優れたハリスが求められる。

鈴木さんは「シーガーグランドマックス」1.5号3.5メートルのカラーバリ仕掛けを用意し、

「まずは1.5号から始めて、バリバリ釣れるようならこのまま、食いが渋ければ細くします」とのこと。女良さんも「シーガーグランドマックス」1.5号だが、やや短い3メートルのカラーバリ仕掛け。2人はこれ以外にも数種、太さを変えた仕掛けを持参している。

5時に5人を乗せて出船し、まずは太東沖の水深20メートル、タナ15メートルで釣り開始。

最初に竿が曲がったのは鈴木さん、「3尾掛かっているね」と言いながら中型のトリプルを披露する。続いて女良さんも同サイズのトリプルを決めてくれた。

「イサキの食いが立っているときはトリプルを狙うと、楽しさ倍増です」と2人は口をそろえる。

鈴木さんはタナ下2メートルから数回に分けてソフトにコマセを振り指示ダナに合わせる。アタったらタナ上3メートルまでゆっくり巻いて追い食いを狙い、コンスタントに釣っていく。

一方、女良さんはタナ下3メートルまでコマセカゴを沈め、1メートル刻みで数回に分けてコマセを振り、指示ダナで待つ。竿先がたたかれるとタナを1メートル上げて追い食いを狙うという釣り方だ。

「シーガーグランドマックスは感度がいいので追い食いすると分かりやすいです。今、2尾目が掛かりました」と言って、女良さんは中型のダブル。

反応があってもコマセの振り方や誘い方、仕掛けなどを工夫しないとトリプルに結びつかないようだ。

その後、食いが一段落したところで大原沖の水深20メートル、タナ15メートルで釣り再開。

こちらもイサキの活性は高く、二人同時に竿を曲げシーンも何度かあった。

その後もイサキの食いは落ちることはなく、鈴木さん、女良さんの順で制限尾数の50尾に到達。同船者も50尾近く釣り上げたところで、早くも9時に沖揚がりとなった。

「この調子なら6月の最盛期が楽しみですね」

2人は満タンのクーラーを手に大満足で船を下りたのであった。

◉Presented by Kureha Gohsen　問い合わせ／クレハ合繊(株)☎03・3249・4654

◉取材協力／外房大原港 初栄丸 ☎0470・62・2807(詳細は巻末の情報欄参照)